

第二回 「世界に発信された設立総会」

「健康になりたい」と中国の気功から吹矢を思い付いた株式会社ダイセイコー創業者の青柳清は、知人の医師のアドバイスで、これをスポーツとして広めることにしました。

老若男女、誰にでも楽しめて健康になれる吹矢なら「国民的スポーツ」に発展する可能性がある、と考えたからです。

記者会見で吹矢を発表 ！！

そこで青柳清は、どうしたら「吹矢」を全国に告知できるか、を考えました。その結果、思い付いたのが「記者会見」を開いて発表することでした。それは、とてもインパクトのある方法でした。吹矢なら楽しく健康になれるだけでなく仲間作りにも最適で「これからの時代にマッチして社会のためになるから」とひらめいたのです。

平成10年（1998年）1月、青柳清は東京商工会議所で「日本吹矢連盟設立準備委員会」の記者発表会を行いました。

公言した以上は実行しなければなりません。まず青柳清は旧来から危険なイメージのある吹矢を、ただの「吹矢」から「スポーツ吹矢」と改めました。

同時に医師らのアドバイスを受けて基本動作、競技ルールを決め、さらにダイセイコーに研究開発させて安心・安全な用具も製作しました。

同年4月22日、「スポーツ吹矢」の団体の「設立総会」が東京・銀座の真ん中の紙パルプ会館（銀座フェニックスプラザ）で開催されました。

青柳清の狙い通り、記者会見以降、マスコミの注目を受けて会員は700人を超えるほどになっていました。この設立総会で青柳清は「スポーツ吹矢で世の中をもっと明るくし日本をもっと健康的な国にしていきたい。日本はもちろん世界にも大きく広がっていきますことを心から願っています」とあいさつしました。

特筆されるのはマスコミの関心の高さでした。テレビはNHKをはじめ8社、ラジオは9社、新聞は朝日新聞をはじめ7社、雑誌は当時の週刊読売など3誌が取り上げ、その報道、記事の回数は40回を超えたほどでした。報道は国内に限りませんでした。NHKは衛星放送を通して当日の模様を22か国語で紹介してくれました。

青柳清は「これだけ注目されるのは社会の関心が高いから。腹式呼吸が手軽にできて健康になれる。このようなスポーツはこれまで存在しなかった。私自身の健康のために始めたスポーツだが私の関心は皆さんの関心ごとでもあったのだ」とつぶやきました。

しかし、それからの普及活動は容易ではありませんでした。

(以下次号)



平成10年4月22日の「スポーツ吹矢」の設立総会
(株式会社ダイセイコー創立30周年記念祝賀会誌から)